

誰もが元気になる学校づくりを進めましょう

令和5年度第2回中丹はぐくみたい力育成会議

3月4日(月)、「魅力ある学校づくり」をテーマに、今年度2回目となる中丹はぐくみたい力育成会議を実施しました。本会議は、副校長・教頭として広い視野を持ち、学校の不易と流行を見極めながら児童生徒にはぐくみたい力を育成するための校内体制を構築することを目的としています。

今回は、京都教育大学より佐古清教授をお招きし、子どもと先生のウェルビーイングを実現する学校づくりについて、佐古先生の豊かな実践を交えてお話いただきました。



京都教育大学大学院
連合教職実践研究科
教授 佐古 清 様

講演の要点

<学校づくりで大切にしたいこと>

前提として「子どもを中心に」ではありますが、基盤として、先生方が「安心でき、つながり、元気になる」学校づくりが重要です。そのためには、管理職の働きかけが大切です。先生方がエンパワーされることで、子どもたちも「安心でき、つながり、元気になる」学校になります。こうした環境の中でこそ、教育活動は充実し、子どもたちが自律的に成長していきます。そのためには、教育活動の成果を見える化し、教職員集団の文化を高める(同僚性を高める)取組が有効です。

<学校づくりの実装>

児童生徒も教師も生き生きと学び成長できる学校を目指しましょう。そのための5つのポイントをお伝えします。

- 【1】 一人一人の先生の「違い」を強みに。(長所を生かす)
- 【2】 しっかりと議論し、みんなで決めたことは協力して成し遂げる。(ゾーンを揃える)
- 【3】 深い児童生徒理解を! そのために汗をかき、常に情報を共有しよう。(教師集団で包み込む)
- 【4】 学校で起きるすべての問題は、学校が今後発展するための財産と捉えよう。(前向きに、研究的に)
- 【5】 教師も自らを豊かに! 学び合う教師集団となろう。(豊かな同僚性を築く)

<つながり(社会関係資本)を豊かに育む学校づくり>

認知能力も非認知能力も「つながり」の中で育ちます。「つながり」を豊かにすることは、子どもの教育格差を是正する可能性(貧困の連鎖を断つ)を持ち、いじめ・不登校の未然防止にもなります(学級・学校の心理的安全性の確保)。教師も子どももつながって学び合う(教師の学びと子どもの学びは相似形)ものであり、学び合う教師集団が学び合う児童生徒集団を育てます。

「豊かに学び続け 未来を拓く力をはぐくむために」

局長講話



中丹教育局長
宮下 繁

副校長・教頭として、子どもたちの将来を見据え、これからの時代に求められる力や人材を自分の中で明確にしてください。そして、校長に相談するだけでなく、良き補佐役になれるよう、副校長・教頭としての意見・判断の具申や建設的な提案・提言をしていくことも必要です。

本年度の中丹教育局主催会議での学びも活用いただきながら、課題の改善に向け具体的な手立てを検討していただきたいと思っております。

総括講義

令和6年度は、「学力」と「不登校」という中丹の課題を踏まえ、魅力ある学校づくりのために、「確かな学力の育成」と「不登校の未然防止と適切な対応」を学校教育の重点として取組を進めていきます。



総括指導主事
伊豆紀代美

これらを推進すべく、次年度も年間を通して局主催の会議・研修会を行いますので、各校の校内研修計画との効果的な関連を図ってください。「中丹のまなび14」と合わせ、説明動画も校内研修等でぜひ御活用ください。

<参加者の感想より>

今年度、自身の管理職としての視点で最も重視してきたことは、教師の学びも子どもと同じであるという視点でした。教師の主体的な働きにつながるには、「やりがい」が改めて大切だと感じます。

職員室の学びのリーダーとなれるよう、教師の良さを賞賛し合う前向きな雰囲気をつくり出し、学び合う集団づくりに努めたい。また、日々のコミュニケーションを円滑化し、教師間のつながりと同僚性を高めていきたい。

つながりを豊かにすることは、全ての人にとってウェルビーイングを高めることにつながるものがよく理解できた。確かに、社会関係資本の質問項目を見た時に、これに肯定的に答えるであろう児童は学力や積極性が優位にあると言える。家庭の経済的・文化的背景に左右されることなく自己実現を図るため、教育活動を推進するにあたり「つながり」を意識することの重要性を認識できた。

今回の会議での学びが各校の学校運営に反映されることで、中丹がひとつとなり、大きな推進力を生み出すことにつながります。今年度のまとめを次年度の構想に生かしていただけますと幸いです。